

## コロナ禍明けの夏・就業体験

### 「就職支援室 インターンシップ担当」

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが2類から5類になり、また、三省合意によるインターンシップの定義が変わって最初の夏の就業体験となりました。

本学では例年通り5月から7月までインターンシップ等学内説明会を実施しました。Zoom ライブ配信やオンデマンド配信に加え、教室でも開催しました。教室開催の際は説明会終了後、その場に於いて申請書記入会も行い、学生たちの質問に答えつつ申請を促しました。また、夏休み前の7月末からインターンシップ等直前研修をこれも Zoom ライブ配信、オンデマンド配信、教室で開催し、参加にあたっての心構え、事前準備の方法などを学んでもらいました。

今回の夏就業体験の参加申込者は211人で昨年度より61人減となりました。マッチング不可となった者は8人でした。マッチング後の辞退者は17人で、内訳は都合が悪くなった者10人、体調不良3人、その他4人です。体調不良の3人はいずれも就業体験途中で体調が悪化したための辞退です。具合が悪い場合は、体験途中であってもお休みするよう指導しておりました。ご準備いただいたプログラムを途中リタイアすることになり、受入事業所の皆さまにはご迷惑をおかけしました。

その他のうち一人は、未連絡欠席でした。受入先事業所の皆さま、山口県インターンシップ推進協議会の皆さまには、ご心配とご迷惑をおかけしました。この場を借りてお詫び申し上げます。経緯としましては、就業体験当日、受入先から山口県インターンシップ推進協議会を通じて、学生が来ていないとの連絡を受け、学生本人に何度も電話やメールをしましたが繋がらず、事件や事故に巻き込まれたのではないかと心配しましたが、結局、遠方のイベントに参加していることが分かりました。山口に戻ってきてから事情を聞くと、本人は、イベント参加が決まってすぐに就業体験を辞退する旨をメールで大学へ連絡したとのことでしたが、確認するとメールが送信されていませんでした。結果的に受入先に辞退の連絡が行かなかったわけです。インターンシップ等学内説明会では学生に、辞退する場合は電話で確実に大学に連絡するように説明していますが、この学生は電子メールのみであったこと、かつ、このメールが送信されていなかったために発生した事案でした。今後は「就業体験に参加できないことが決まったら、『速やかに確実に』連絡する」ことを重要事項として徹底させ、二度とこのようなことがないようにしたいと思います。

トラブルもありましたが、就業体験を終え学生たちは皆、元気に10月からの後期授業に出席しています。就業体験に行く前と行った後で自分はどう変わったか、この貴重な経験をこれからの学校生活や来たる就職活動にどう活かすか、それぞれ考えてくれていると思います。体験を通じて社会はそんなに甘いもんじゃなかった、もっと自分は勉強しなければ、と気づいたのなら参加した価値はあったのではないのでしょうか。

ご多忙の中、学生たちを受け入れていただいた企業・官公庁等の皆さまには、厚くお礼申し上げます。また、山口県インターンシップ推進協議会コーディネーターの皆さまには、ご尽力いただきありがとうございました。今後も引き続き、よろしくお願い致します。

## インターンシップ実施報告書

「大学事務局 一般就職担当」

### 1. 本学での取組み

本学のインターンシップは、学生の自主性を重要視した取り組み・指導を行っています。就職に向け必修授業であるキャリアデザインにおいて、グループワーク、グループディスカッション、ディベートを中心に実際に学生が「やってみる」ことで、就職活動に必要な基本的な知識とスキルを養成しています。また、インターンシップの重要性や就職活動に向けてのマナーを説明するとともに積極的な参加を促しています。同時に、年間合算で10日間以上のインターンシップについて、単位認定の取り扱いも実施しております。

### 2. 学生の声

実施概要の掲載がない事業所もあったため、申込み前に内容が分からず、実際に体験してみたら思っていたのと全く違ったということがあったようです。ミスマッチを防ぐため、あらかじめ詳細（内容や期間など）を提示してほしいとの声が多かったです。その際に、概要の書式を統一して頂けると幸いです。また、事前に期間が分からないというのも学生にとっては予定を立てづらいようでした。

### 3. 要望・期待等

メールや電話、FAX等、連絡手段が分断されていたため、企業情報等の連絡手段の統一をお願いしたいです。また、職員や学生、事業所担当者が次にどのような手続きを踏めばいいのか不明瞭な点があったため手続きの簡素化を求める声もありました。企業によっては企業独自の書類が必要になり、二度手間になることがありました。先に承知でしたら教えていただけると幸いです。企業が書類等で理解がなされていない点があり、学校から事業所に連絡を取ることが多く、逆に企業から学校への問い合わせも多かったため、実施規定を周知して頂けると双方の負担も減るのではないかと感じました。

### 4. 所感

学生が心身ともに成長するインターンシップ参加機会は、就職活動において非常に重要な役割を果たすと感じております。

最後になりましたが、学生の受け入れにご尽力いただきました山口県インターンシップ推進協議会の皆様に、厚く御礼申し上げます。

以上

〈大学 報告〉

## インターンシップ 学生受け入れへのお礼

「キャリア教育科目担当 准教授」

2023年度の就業体験実習・インターンシップも企業・団体の皆様のお力添えで無事に終了することができ、学生たちは職業体験を通じて深い学びを得ることができました。この場をお借りして、まずは心より厚く御礼申し上げます。

山口県インターンシップ推進協議会経由では、単位認定をしておりますが3日間の実習に3名、5日間の実習に2名、合計5名の3年生が参加させていただくことができました。

大学の単位認定科目としての「就業体験実習」、「インターンシップ」では、受け入れ可能人数、それぞれ40名、53名の合計93名に対して、派遣実績は31名、9名の合計40名となりました。40名のうち、3年生が25名、2年生が10名、1年生が5名と、残念ながら、コロナ禍前の水準には戻っておりません。就職情報サイト経由のイベントが増えている昨今、3年生の単位認定のインターンシップへの参加人数減少傾向は今後も続いていくのかもしれませんが、本学としては、3年生の参加者数増加への働きかけはもちろんのこと、来年度以降、1, 2年生の参加人数をさらに増やし、低学年から職業体験を行うことで、職業観の涵養に努めていきたいと考えております。

また、今年度はコロナ禍が一旦落ち着き、海外に渡航できるようになりましたので、4年ぶりにシンガポールでの海外就業体験も行うことができました。

本学では、2001年に単位認定インターンシップの試行をスタートさせ、2002年から単位認定科目として実施し、今年度で21年目となりますが、2022年6月に文部科学省・厚生労働省・経済産業省の合意による「インターンシップの推進に当たっての基本的考え方」（いわゆる新三省合意）が改正されたことにより、従来の単位認定科目である「インターンシップ」の取組みについて、大きく見直しを行いました。今年度は移行措置期間として、5日間のうち半分を超える日数を職場で就業体験ができる場合は、2年生が参加する場合でも「インターンシップ」という科目名で単位認定をしました。来年度からは、1, 2年生から参加できる場合には「就業体験実習」、3年生が参加し、新三省合意の条件（タイプ3）に当てはまる場合には「インターンシップ」として明確に区別する予定としております。しかし、これが最終の完成形ということではなく、どのように運用していくか等について、今後もまだまだ改善が必要だと思っております。企業・団体のご担当者様と協働しながら、企業・団体様にとってもメリットがあり、学生・大学にとっても教育効果の高い、より良い仕組み作りをしていきたいと考えておりますので、引き続きご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

## より効果的なインターンシップの実施に向けて

### 「キャリアサポート室」

インターンシップ拡充に向けた本学の課題は学生の参加促進である。インターンシップへの参加は、キャリア形成という教育的側面からも就職活動へ向けてという側面からも有意義ではあるが、本学の参加学生はまだまだ少ない。しかし、ある参加学生からは、与えられた課題であったカレンダー作成で表記に間違いがあることに後で気づき、作業工程のなかで見直しの時間を取ることの大切さを実感できたと報告があった。また、別の学生からは、営業同行の体験を通して自分は営業の仕事が苦手ということがよく分かったが、それが分かっただけでも良い経験だったという報告があった。

学生には多くの体験を通して経験値を増やし、より多くの気づきを得てもらいたいため、本学は学生たちへのアプローチ方法・取り組み方を見直して学生参加を増やしていきたいと考えている。

受入れ企業側は、日常業務を遂行しながらの学生受入れが大変であるにもかかわらず、前向きに学生を受け入れていただいていると改めて感じるがあった。

ある学生が受入れ期間直前にコロナに感染してしまい、インターンシップ参加を中止せざるを得なくなった。療養後、受入れ企業先へ改めて日程調整をお願いしたところ快諾いただき、学生は夏季休暇中にインターンシップを無事実施することができた。また、この夏は台風の影響で公共交通機関が運休になり、当初より短い期間の受け入れになったケースがあった。本人の都合で実現できなかったが、どの受入れ企業も希望があれば追加日の相談など再調整を検討する意向を示していただけた。このように柔軟な対応をしていただける企業が増えて欲しいと感じると同時に、企業から参加学生に対してインターンシップ後のフィードバックの仕組みがあるとよいと感じた。それが、今後の学生へのアドバイスや指導につながり、学生自身の行動や見方・考え方などに良い効果を与えるのではないかなと思う。

そして、協議会へも学生と企業のマッチングが円滑に進むようお願いしたいことがある。

企業情報について、前年・過年度情報をもとに、マッチング希望の倍率、同じ大学からの受入れ人数の制限有無、参加学生コメント掲載など受入れ企業選択の情報を増やしていただきたい。

また今回、一次募集ですべて落選した学生の対応を通して、一次募集のみで二次募集しない企業情報がサイトに掲載されたままになっていたことや、そもそも一次募集で手を挙げておかなければ二次募集には表示されない企業もあることなどが分かった。つまり、学生の最初の選択や優先順位付けで受入れ企業の決定に影響が出るのである。ある程度企業側にも了承が必要な情報もあるかもしれないが、協議会がこれまでに蓄積しているであろう学生志向や企業情報、アンケート情報などを活用し、マッチングが円滑に進むよう迅速な情報更新をしてもらいたい。

また、学生への補助金申請については、山口県内では車移動でないと不便なところが多いことを配慮していただき、公共交通機関利用者だけ半額補助をするのではなく、自家用車使用の学生にも補助が出るよう検討してもらいたい。

主催する協議会、学生を送り出す大学側、学生を受け入れる企業側が各立場で今後も協働体制で取り組み、より効果的なインターンシップが実施できればと今回主担当になって改めて実感した。

〈大学 報告〉

## 令和5年度のインターンシップを振り返って

### 「学生課・就職統括役」

本校は、水産業及びその関連分野で活躍できる人材の育成を図ることを目的としております。それに伴い、学生が在学中に志望する分野の団体及び企業で就業体験を行い、実社会での職業や働く者の役割を理解して、将来、社会人として働くことへの理解を深めて進路決定に役立てることを目的にインターンシップ制度を設けており、5日間以上の一定の条件をクリアするものについては単位認定も行っております。

私が所属する学生課は、主に夏休みなどの学生休業期間中において、行政機関などのインターンシップに対する窓口として、その募集要領に沿った学生からの申込みや受入先からの決定通知、インターンシップ終了後の報告書提出などの事務処理に加え、ビジネスマナーセミナーを行い、また、学生が所属する学科では、3年生及び船舶職員を志望する4年生を中心に企業等の募集に対する応募の手続きやインターンシップを受講する心構えなどの指導を行っています。

令和2年度から続く新型コロナウイルス感染症の影響により、昨年度まではオンライン開催や感染拡大に伴う受入中止がありました。今年度は新型コロナウイルス感染症が5類に移行したこともあり、受入中止や対面開催での実施になったところが増えました。インターンシップにはやはり実地での就業体験が重要であり、今後も対面でのインターンシップが実施されることを希望いたします。

今回のインターンシップ(夏季)においては、地方自治体中心に5名のマッチングが行われました。終了後に学生から提出されたインターンシップ報告書からは、しっかりとした成果が伺え、実際に業務に触れることで今まで漠然とした組織や業務のイメージが同じだった点、違っていた点と様々な気づきがあり、就業後のミスマッチ解消に非常に役立ったと思います。また、実際に「とても役に立った」「行って良かった」との声も聞かれ、体験後の就業意欲も高まっているようです。

令和5年度から、インターンシップの取り扱いが変わり、一定の要件を満たせば、そこで取得した学生の情報を広報活動・採用選考活動の開始後に使用することが可能となりました。年々、インターンシップを実施する企業等が増え、今後ますますインターンシップの重要性は高まっていくことが予想されます。これからも、引き続き学生へのインターンシップ参加を推進できるよう努めて参りたいと思います。

最後に、受入事業所の方々や山口県インターンシップ推進協議会の皆様には大変お世話になりました。心より御礼申し上げます。